

# 地域の素材色の景観的価値獲得プロセスに関する考察～石州瓦を例に～

山下雅士<sup>1</sup>・中井祐<sup>2</sup>

<sup>1</sup>非会員 学士 東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻(〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1, E-mail:yamashita@keikan.t.u-tokyo.ac.jp)

<sup>2</sup>正会員 工博 東京大学工学系研究科社会基盤学専攻(〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1, E-mail:yu@keikan.t.u-tokyo.ac.jp)

戦後の技術革新や流通網の拡大などによって地方都市に安価な大量生産型建材が流入していった結果、地域の特徴が見えにくい風景が地方都市に多く見られるようになった。これを受け近年、地域のローカリティを見直し、都市の魅力を再考しようという動きが様々な地域で見られるようになってきている。そこで本研究では、赤色で独特の光沢を持ち、島根県石見地方に広く分布する石州瓦に着目し、石州瓦に関する地域の取り組みの流れを整理することで、地域の素材色が景観的価値を獲得するプロセスを検証した。その結果、素材色の織り成す眺めが単独で景観的価値を得ることは困難であり、歴史的価値に付随して獲得されることが必要であることが認められた。

**キーワード：素材、瓦、色彩**

## 1. はじめに

### (1)背景

戦後のわが国では急速な経済成長と共に、安価で機能性のある大量生産型建材の開発、また流通網の発達により輸送コストの低下が起こった。それに伴い、各地方のインフラ・建造物の整備において地場産の素材や広報を使用する傾向は弱まり、どの地域でも大量生産型建材を使った施設が見受けられるようになってきている。大量生産型建材の各地への普及は全国的な均質化を招き、現在では地域性・風土性があいまいな町並みが多く存在している。

一方、その地域の気候、風土、地形その他の様々な特徴を背景として生まれた地場産素材の織り成す風景が、その地域の特色となっている事例がある。このような地域において、地場の素材が文化的価値を獲得する過程を知ることは、地域性とは何かを見直すことに繋がると考えられる。

### (2)目的

本来機能的意味の表出の一部に過ぎない素材の色が、長い時間を経ることによってその色によって特徴付けられた眺めそのものに価値が見出されることがある。例えば石州瓦の光沢を持った赤色は、元々豪雪地帯において

凍結害への対策として瓦に釉薬を塗って焼成していたことによって発生した色であるが、現在は赤い瓦の屋根並みそのものが眺めとしての価値を獲得している。

本論文は、どのようなプロセスを経て素材色に価値が見出されるに至るのかを、石州瓦を対象に考察することを目的としている。

### (3)対象地域

対象地域は、島根県津和野町、江津市、江津本町、温泉津町とする。各地域とも、石州瓦に関する条例、もしくは住民の取り組みが存在するという条件の下、選定を行った。

## 2. 仮説

素材の色がその地域の文化的価値を獲得するプロセスを、大きく2段階に分類する。すなわち、  
プロセス1：気候・風土及びそれらを背景とした流通・工法の地域的特徴によって素材が性能、外観に関する独自性を有する  
プロセス2：その独自性が、歴史的または環境的な価値を得ることを経て、景観的価値が発生する  
である。

これらのプロセスを図1に示す。それぞれの語句を説明すると、

独自性とは、その素材が多く使われている地域の気候・風土、流通、工法の特徴に応じて出来上がった素材（色・性能など）及び素材の織り成す景観が、その地域独自のものとなっている、ということであり、価値とは関係のない語句である。

歴史的価値とは、あるものが、古くからの人間の生活のさまを表しているものとして価値が見出されたとき、その価値を歴史的価値と呼ぶこととする。

環境的価値とは、あるものが単体ではなく、他の素材等との組み合わせによって価値が見出されるとき、その価値を環境的価値と呼ぶことにする。

景観的価値とは、環境的価値に眺めとしての価値が付与されたものである。

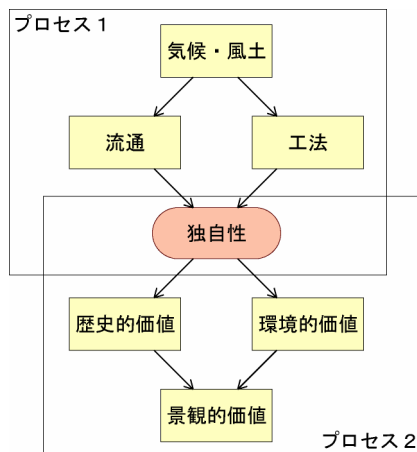


図-1 景観的価値獲得プロセスの仮説

### 3. 方法

対象各地域の条例及び石州瓦に関連した活動、また住民の活動について、当時の資料及びヒアリングによって調査した。

また、それらを行動の主体と年代によって分類することで、現地住民及び自治体の石州瓦に対する考え方が変化した要因を考察した。

### 4. 結果

津和野町、江津市、江津本町、温泉津町における各主体の石州瓦関連活動を年代順に表す。（表-1～表-4）

#### (1)津和野町

表-1 津和野町年表

	出来事	主体
昭和45年	ディスカバージャパンキャンペーン	国鉄
昭和46年	津和野の歴史と文化を守る会 設立	住民
昭和48年	環境保全条例制定	町
昭和51年	伝統的文化都市に選定	国土庁
	伝統的文化都市環境保存地区保全調査	県 町
昭和54年	伝統的文化都市環境保存地区保全事業	県 町
平成2年	HOP計画策定	町

津和野において石州瓦が歴史的価値を獲得した主要因は、津和野が歴史的町並みの保存対象として注目、分析されたことである。津和野は国鉄のディスカバージャパンキャンペーンの際、津和野城の存在や森鷗外の出身地であることから観光地として注目されたことを契機として、昭和48年の環境保全条例によって、歴史的建築物の保存の制度が作られた。津和野で石州瓦が歴史的価値を獲得したのは、昭和52年の伝統的文化都市環境保存地区保全事業である。事前調査では石州瓦を津和野の歴史的町並みの要素の一部として捉え、実際の事業として建造物の保存や新設する自転車置き場の屋根などにも石州瓦を使用し、古くから親しまれてきた素材である石州瓦に歴史的価値を付加させることとなった。その後の町の取り組みでは、公共建築物に石州瓦を用いたり、環境保全条例の改正で歴史的町並みの中に石州瓦を用いるように規制をするなど、石州瓦に歴史的価値を見出していることが分かる。このように津和野町において、石州瓦の景観的価値の獲得は、歴史的価値を経て起こった。

環境的価値に関しては、昭和52年の調査の際に、町並みの重要な要素として白壁・石州瓦などの要素を並列して挙げている。しかし素材の組み合わせによる相乗効果については詳しく触れているとは言えず、またそれ以外に環境的価値のみに着目しての石州瓦に関する記述は見受けられない。

#### (2)温泉津町

表-2 温泉津町年表

	出来事	主体
平成7年	石見銀山の世界遺産登録を目指した活動	県
平成8年	旧温泉津警察署の解体	町
	温泉津の町並み保存を実現する会 設立	住民
平成9年	温泉津の町並みの評価	文化庁
	東京藝術大学斎藤教授による評価	学識者
平成10年	二度の町並み調査	県 町
平成16年	重要伝統的建造物群保存地区に選定	文化庁

温泉津も津和野と同様、歴史的町並み保存に付随して石州瓦が注目されるようになった。温泉津では単体の歴史的建造物保存の取り組みを経ず、直接歴史的町並み保存への取り組みがスタートした。これは、世界遺産登録を目指す石見銀山の町並みとの関連付けを行うことで、温泉津の温泉街の振興を図ろうとしたためである。これ

には商工会の中心であった温泉旅館の女将達が率先して町並み保存を訴える活動を行い、地域の意識が統一されたことが要因としてある。

歴史的価値を見出した年代は正確には捉えられないが、伝統的建造物群保存地区保存基準で屋根の「復元修理」（伝統的建造物の助成条件）及び「石州和柄葺き」（伝統的建造物以外の助成条件）の規定があることから、歴史的町並みの評価に付随して、石州瓦が歴史的価値を持ったことが分かる。

環境的価値については、伝統的建造物群保存地区指定の事前調査で「町の景観を形成している建造物群の大部分は、木造・2階建て・切妻造・平入の町屋型の住宅で、大半は赤い石州瓦の屋根を載せていることがわかる」と記述されていることから、他の歴史的な素材との組み合わせとして石州瓦を評価していることがわかる。

### (3)江津市

表-3 江津市年表

	出来事	主体
昭和 58年	HOPE計画策定	市
平成 14年	島根県住宅マスタープラン	県
平成 16年	江津市住宅マスタープラン策定	市

平成58年、江津市が初めて石州瓦関連の活動として取り組んだHOPE計画には、目的として「赤瓦景観の創出」という景観的価値の獲得が挙げられている。これは歴史性とは関係なく、地場産業である石州瓦の利用促進とまちづくりを連結させることを狙ったものである。石州瓦に歴史的価値を見出していたわけではない。歴史的価値、環境的価値を経ずに景観的価値の創出を目指したこの計画は、住民の合意がうまく得られなかったために大きな成果はあげられなかった。また、後にHOPE計画を引き継ぐものとして立てられた住宅マスタープランにおいても、歴史的町並みを残す江津本町を除いて特筆すべき事業は存在していない。

環境的価値については、「江津型住宅」として石州瓦を用いた江津の見本となる住宅を提案する計画が立てられており、素材の組み合わせの中における石州瓦というものの価値を表現しようという試みがされているのがわかる。しかしこの取り組みは現実には行われず、環境的価値が生ずることはなかった。

### (4)江津本町

本町地区は、江津市で唯一赤瓦景観の創出活動が行われている地域である。本町地区も、歴史的町並みへの注目から石州瓦の価値の発見が起こった。江津市建築士会の人々が町並みに興味を持ったことを発端として、神奈

表-4 江津本町年表

	出来事	主体
平成 11年	江津市建築士会の町並みウォッチング	建築士会
平成 12年	住宅マスタープランでの検討	市
平成 14年	神奈川大学西教授による町並みの評価	学識者
平成 15年	本町地区まちづくり推進協議会発足	住民
平成 16年	国交省石渡氏の評価を受ける	国
平成 17年	赤瓦を活かした街づくり住民協定締結	住民

川大学建築学科の西和夫教授によって歴史的な価値を保証され、その後江津市の住宅マスタープランの中へ組み込まれ、石州瓦の保存活動が行われるようになった。また、本町における石州瓦の環境的価値も、津和野や温泉津と同様に格子戸など古くからの要素の組み合わせによって獲得されている。

### (5)まとめ

以上をまとめると、歴史的価値を経て景観的価値を得るプロセスにおいては、

・津和野、温泉津、江津本町では、仮説どおり素材の色は歴史的価値を経て景観的価値を得ている。歴史的価値を獲得したのは、町並みの歴史的価値に付随して価値が見出されたためである。また、石州瓦にとって環境的価値のある町並みとは歴史的な町並みであるという認識がされており、環境的価値のみが独立して評価されてはいない。（図-2）

・江津市は歴史的価値を経ず、直接景観的価値を獲得しようとしたが、市民の協力を得られず大きな成果をあげることができなかった。また、環境的価値の高い家として江津式住宅の提案をしようとしていたが、実行には至らなかった。（図-3）

ということがわかる。

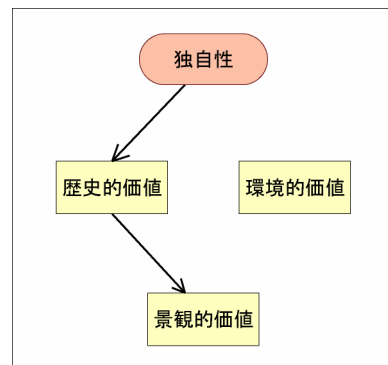


図-2 津和野・温泉津・江津本町のプロセス

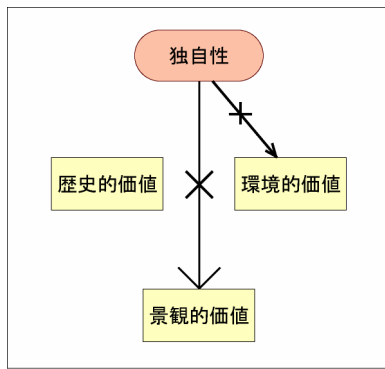


図-3 江津のプロセス

## 5. 考察

### (1) 仮説の妥当性

以上を踏まえて、仮説の妥当性に対して考察を行う。まず、歴史的価値を経て景観的価値を得るプロセスが存在することに関しては、津和野・温泉津・江津本町において石州瓦が歴史的価値を経て景観的価値を得ていることは、仮説を支持するものである。

環境的価値を経て景観的価値を得るプロセスに関しては、津和野・温泉津・本町の事例を見ると、石州瓦の環境的価値とは歴史的な町並みを理想としたものである。また、歴史的価値の裏づけ無しに、環境的価値の創出を目指した江津型住宅を提案した江津では、事業はスタートされなかった。これらから、環境的価値を経ることは歴史的価値と独立しては存在しにくいことが分かる。

以上より、素材色が景観的価値を獲得するためには歴史的価値に付随して価値が発見されることが必要であり、素材色の織り成す眺めが単独で景観的価値を得ることは困難であること、環境的価値が歴史的価値と独立して獲得されることが確認された。

### (2) 町並み保存運動が行われる要因について

次に、歴史的価値の獲得の要因である町並み保存活動がどのような要因によって行われるのかを調べる。

対象地域のうち、町並みが歴史的価値を獲得し、町並み保存活動が行われている事例は、津和野（環境保全条例）、温泉津（重要伝統建造物群保存地区への指定）、本町（まちなみ保存推進協議会の設立）の3地域においてである。以下に、3地域のうち2地域以上で見受けられる3つの要因をピックアップし、事例と共に整理した。

#### a) 学識者の評価・価値の発見

・津和野：伝統的文化都市事業調査において、石州瓦が町並み景観の重要な要素であることを明らかにしたことにより、環境保全条例の保存基準に石州瓦を使用するという規制が追加された。

・温泉津：東京藝術大学の斉藤教授などによる町並みの

評価が、住民が町並み保存活動を行う根拠となった。

・本町：神奈川大学の西教授による町並みの評価により、市が町並み保存活動を推進する根拠となった。

#### b) 国・県の評価・価値の発見

・津和野：伝統的文化都市として国土庁に選定されたことで補助金や指導を得、殿町を中心とした町並み整備を行った。

・温泉津：文化庁が銀山との関連などから町並みを評価され、町が文化庁の補助のもと二度の町並み調査を行った。

・本町：国交省が本町の町並みを評価したことで、夢街道ルネサンスに参加した。アドバイスや広報面などで国交省のバックアップを得られるようになった

## 6. 結論

本論における成果は以下の通りである。

・素材色が文化的価値を獲得するプロセスの仮説を立て、江津市、本町地区、温泉津町、津和野町の4地域の事例をもとに仮説の検証を行った。

・歴史的価値の獲得において重要である町並み保存運動が起こる条件について、江津市を除く3地域に共通する条件をまとめた。

### 参考文献

- 1) 江津市：江津市住宅マスタープラン策定業務報告書（調査編）2004,
- 2) 江津市：江津市住宅マスタープラン策定業務報告書（計画編）2004
- 3) 本町地区歴史的建造物を活かしたまちづくり推進協議会：江津本町まち並み景観整備基本計画報告書 2005